

平成 26 年度 第 6 回益田市子ども・子育て会議議事録

日 時：平成 27 年 2 月 26 日（木）午後 1 時 30 分～午後 3 時 50 分

場 所：益田市立市民学習センター203 号室

出席者：

（委 員）高島会長、福井委員、吉村委員、伊藤委員、永見委員、杉内直也委員、
石橋委員、池田委員、渋谷委員、杉内護委員

（事務局）福祉環境部	原部長、村上次長
子育て支援課	廣瀬課長、棕所長、石川課長補佐、齋藤主査、 大島主任主事
社会教育課	大畑課長
美都総合支所住民福祉課	大谷課長
匹見総合支所住民福祉課	舩田課長

<次第>

1 開会あいさつ

2 議 事

（1）子ども・子育て支援事業計画（案）について

（2）その他

～あいさつ～

○廣瀬課長 皆さんこんにちは。本日はお忙しい中、子ども・子育て会議にお集まりいただき、誠にありがとうございます。平素は益田市の児童福祉保育行政の推進にご理解ご協力いただき誠にありがとうございます。

何度も申し上げているが、いよいよ 4 月から子ども・子育て支援新制度がスタートする。前回の会議でも少し触れているが、事業者にとって一番の関心事である公定価格が 2 月 5 日の国の子ども子育て会議で国の予算を踏まえて示されている。また、それに関連して平成 27 年度において、予算額 5,127 億円で 7,000 億円ベースの質の改善ができる。また各市町村が計画に沿った量の拡充をその中で対応ができるということも言われている。また、地域子ども子育て支援事業の中では放課後児童クラブについては、今まで 10 人以上が補助対象であったが 10 人未満でも対象になる等、大きな変更があった。また、子育て支援員の全国共通の研修なども出されており、基本的な研修・専門的な研修をこれから実施していくなど、ほぼ現時点で全容が見えてきた段階ではないかと思っている。

1 月 30 日に会議を開き計画の素案等について審議していただいた。現在当課においては、支給認定証の交付に向けたシステム入力や保育料設定の最終調整をやりながら課員一同一丸となって新制度に向けた準備をしているところ。

本日は、パブリックコメントが昨日終わり、一名（3 件）の意見をいただいた。この内容の説明や計画に手直し等行ったところを説明させていただき、本日も慎重審議を頂きたい。最終の詰めも本日でできればと思っているので、どうかよろしくお願ひしたい。

また、条例等の改廃や今後のスケジュール等についても説明する予定。

～議事～

○高島会長 皆さんこんにちは。前回の会議では長時間に渡りご協議をいただきお疲れ様でした。パブリックコメントの意見については、事前に確認した時点では意見無しということだったが、どれだけの人が関心を持ってホームページ等で見ていただいたか、興味を持っていただけたら嬉しく思う。

本日の会議をもってスケジュール上の策定会議は終りということであるが、益田市の保護者の方々が安心して子育てができるように本日も協議をして頂けたらと思う。

それでは益田市子ども・子育て支援事業計画（案）について事務局お願いします。

○石川補佐〔説明〕

■市民からの意見公募（パブリックコメント）の結果について

■子ども・子育て支援事業計画（案）について

○齋藤主査〔説明〕

・放課後健全育成事業の追記事項について（事業計画案P47）

○高島会長 いろんなご意見を出して頂けたらと思う。よろしくお願ひしたい。

○伊藤委員 放課後子育て総合プランというのは、説明を聞く限りでは、別章立てにするような内容ではないか。項目自体が、非常に大きなものだと思う。

内容としては放課後の話ということは分かったが、放課後児童クラブとボランティアハウスと放課後子ども教室という書き方がされていて、まずそれが理解できていない。これで国の計画に従って補助金がもらえるといっても、今まで出てきてない話がいきなり出てきてこの時間でやってというのはあんまりではないか。どういう考えで出てきたものか。

○高島会長 平成 19 年度から放課後子どもプランという立ち上げがあり、都会の方では子ども教室という名称であるが、益田市ではボランティアハウスという名称で実施してきた。知らない方からすれば確かにいきなり出てきたものだと思う。私は H19 年度から 6 年間放課後子どもプランに関わってきたので、いきなり国が下ろしてきたものではなく 6 年間委員さんたちが集まって協議してきた。放課後子どもプランと子ども教室というのは名前が違うけど同じもの。伊藤委員の意見は良く分かる。

この連携一体化は既に静かに進んでおり、平成 19 年度には地域の方々がすごく熱くなって取り組んでおられたが、だんだん後継者に繋いでいくのが大変という声も聞こえたりする。それで今回大きく放課後子ども総合プランという形で国から下りてきて、一体または連携というもので説明されたのだと思う。

○伊藤委員 この内容については次世代育成支援行動計画に出てくるものではないのか。例えば、他の放課後の関係で質問した時には、次世代育成支援行動計画でやっているという答えが多かった。これに関しては子ども子育て支援事業計画に入ってくると、筋が通らないという気がしている。その整理はどうなっているのか。

○廣瀬課長 次世代行動計画の策定の手引きがあり、次世代計画でもこの事業計画に記載してもよいとしている。この事業計画については地域子ども子育て支援事業の中に放課後児童クラブの推進があり、それに関連して主要施策の中には放課後子ども教室の推

進についても記載している。そのことから事業計画に落とし込んだ方がよいのではないかとということもあり、補助金を確保するための確保策としても入れてさせてもらった。P33には主要事業の放課後子ども教室の実施のところで「国の放課後子ども総合プランに基づき」と入れている。一体型或いは連携型というのは今も既に取組が行われており、特に西益田小学校校区の活動についてはかなり注目されて、放課後児童クラブとボランティアハウスが校舎1階で今後も展開されていくのではないかと考えている。そういったところが起点となって、今後5年間で一体型5箇所、連携型3か所を目標にしてやっていくということで、社会教育課と協議しながらここに落とし込んだ。いきなりと仰ると回答にならないが、事務局としての思いである。国の方からも急に補助金云々の話も出てきており、国の説明会にも先月出向いたところでもある。

○伊藤委員 内情は理解できるが、今までの流れと文脈が違うので、もう少し文章を練られた方がよいのではないかと。高島会長や廣瀬課長の説明がないとわからない書き方がされている。もう少し分かりやすく記載してほしい。

P10(2)地域子育て支援拠点事業の課題の「より多くの方に」となっているので「多くの方」の間違えだと思う。

中段以降のファミリー・サポート・センターの課題のところで「すべての活動に対応するために～」とあるがファミリーサポートセンターの活動とは何か。ここまで「ファミリーサポートセンターとはこういう活動をしています」という内容は出てきていないと思う。ここで初めて出てきているので、もう少し現状のところでどんな活動をしているか謳っておいた方がよいのではないかと考えた。

○福井委員 現状のところ様々取組をされているのであれば、そういうのは盛り込んだ方が読む側も分かりやすい。先ほどの放課後児童クラブの話でもいきなり聞いたこともない言葉が出てくるので違和感を感じるのだと思うので、これまでの益田市の活動の経緯や実績や独自性を分かりやすく言葉の説明も含めて加えるとそこまで違和感無く読んでもらえるのかなと感じた。それはファミリーサポートセンターのところでも同様なかと思った。

○伊藤委員 福井委員が仰ったように現状の部分が薄いと思う。益田市は様々な事業を行っているのにそれが見えない。今後のことばかりで今何しているのか分からない。もっとPRした方がよい。

P28 基本目標「1 地域における子育てへの支援」のところで「出発点は家庭」ということが書いてあって親自身が自覚を持たないと生活習慣等身につけさせることができないので、文言が逆ではないかという気がするがいかか。

また、にこにこ部屋を保育研究会に委託してやっておられるが、障がい児と外国の方が主に記載されているが、現在は一般の方の利用もあるのだが、一般の利用はどうなるのか疑問に思った。もし一般の利用も引き続きできるのであればこれも支援のひとつになると思うので記載した方がよいのではないかと。

○吉村委員 毎月3～4日間ににこにこの部屋を開設している。当初は外国人の保護者や障がい児の保護者やひとり親家庭の方を対象に集まって交流するの場と考えていたが、今は一般の方の利用もある。一般のリピーターの方も沢山おられ、良い憩いの場所だと思っており、引き続き実施したい。

○廣瀬課長 県の交付金事業で、保育研究会に補助事業で6年以上続いており頭が下が

る思いである。日曜日にも関わらず市内 29 園の保育所の保育士交代制で毎週やってもらえる。引き続き支援をしていきたいと思っている。

○石橋委員 にこにこの部屋というのは初めて聞いた。せっかくこういう良いものがあるので、もっと益田市全体でPRしたら良いと思う。

○伊藤委員 P44 養育支援訪問事業の量の見込みは、50 件であるがこれはこのままでいいか。

○石川補佐 これはニーズ調査で出た結果ではないが、乳幼児家庭訪問事業を実施してその中でも特にフォローが必要な方への支援となっている。H27 年度の実績を見ないと分からないが、家庭的なものはそれほど増えないだろうと見込んで 50 件としている。

○伊藤委員 病児病後児保育についての対応が困るという意見が多いが、実際、吉田保育所でやってられるが、症状が違う感染症の子どもは預かってもらえない。最初にOKした子どもと同じような感染症の子どもは預かってもらえる。もう 1～2 園対応できれば良いと思う。または、今の吉田保育所の保育室を仕切るなどで対応できるような考えがないか。検討をお願いしたい。

○石川補佐 ニーズ調査の結果からすると数字としては現れてきていないが、アンケートから見られる状況などで潜在的なニーズがあるのは承知している。現在益田市においては病後児しかやっておらず、病児となれば病院等も含めて検討をする必要があるかと思う。今後も少しでも改善できるように進めていきたい。

○伊藤委員 小学校の低学年のフォローはどうなっているのか。

○廣瀬課長 小学校 3 年までは今の施設で受入れている。

○石橋委員 P37 発達障がいについての研修のところ、自閉症と高機能自閉症というのは同じ分類となると思うので最初の自閉症だけで良いのではないか。

参考資料のところに保育所・幼稚園・認定こども園や事業所内保育所等の益田市内の施設一覧があれば良いと思う。

役員名簿で、まどころ保育園については園名が変わったので修正をお願いしたい。

○吉村委員 P30 のところで、「中山間地域を抱え」と明記され分かりやすくなったが、やはり繁華街と中山間地域を考えると、どうしても格差が出てくるところでまだ納得し難い。下から 2 行目の「現状を踏まえ」の後に「それぞれの地域において」という文言を挿入していただくと「中山間地域も含めてどこの地域でも」となるのでお願いしたい。

P36 「2 保幼小の連携」のところに「ふるさと教育の推進」を入れていただき嬉しく思う。ふるさと教育は遊びだけでなく、地産地消とか高津川の鮎といった食生活なども取り組みの一つだと思う。そういった事も盛り込んでほしい。

P28 基本的な視点の「1 子どもの育ちの視点」の「保育については～」ところに、「益田の豊かな自然と社会環境を生かした」という文言を入れてはどうか。また「3 地域の支えあいの視点」では地域で子育てをするという記載があるが、「地域に子育て世代がいることにより地域の未来が明るくなり、だから未来を支えるために地域が子育てを支

えましよう」というようなことを一言盛り込んでほしい。子育ては受け身ではなく、地域貢献という視点も入れてほしい。

P35 幼児教育と保育を分けて記載されているが、幼児教育と保育だと幼稚園と保育所というように受け止められ方をされるが、保育所も決して教育が無いわけではないので、誤解が生じるのではないかと感じた。また、「既存認可保育所における認定こども園化の支援」が消されているが、中山間地域のところを考えると認定こども園に移行して幼稚園部分の子ども達も受入れが可能という方向にすべきと思うが、消された理由について伺いたい。

○石川補佐 保育所の認定こども園化とすると、幼児教育の受入体制の充実が図られることになる。「保育の受入体制」ではなく「幼児教育の受入体制」の項目に認定こども園化の支援を記載したが、教育と保育を分けて記載しているところで吉村委員のご意見について書き方について少し検討が必要かと思った。

○伊藤委員 幼稚園と小規模保育の運営支援の項目だけ主管課の記載が無いので、入れておいてほしい。

○石橋委員 今の幼児教育と保育の受入体制のところ認定こども園のことが含まれてないので、認定こども園のことも記載してほしい。

○高島会長 学童保育のことであるが、待機が年々増えてくる中で今回の放課後児童クラブとボランティアハウスとの一体化というのは受け皿を確保するうえで非常に有効である。現実には今年度待機児童が出るなど大きな問題を抱えている状況で、特別な支援を必要とする子どもが増えてきた。障害の基準が決まって無いのが現状で、課題がたくさん見えてきた。

教育委員会と福祉部局との連携強化とあるが、ボランティアハウスや放課後児童クラブも学校に入っていくのがベストだと思うが、現実には余裕教室はなかなか無い。放課後児童クラブが学校の中に入っても学校の先生方とも連携がとれないと、生活し辛い状況がある。そういう不安も抱えている。

ボランティアハウスの現状やTKPについて活動内容等について少し説明していただきたい。

○大畑課長 福祉部局と教育委員会でまだ1度しか話し合いができていないが、市長からより良い形を作れという指示があり、しっかり作り上げていきたい。

放課後子ども教室（ボランティアハウス）はサービスではない。そこに関わっている方たち自身が自分のキャリアや社会で学んだことを活かす場でもあり、子どもだけが主体の場ではないという認識を持っていただきたい。地域の中で自分のキャリアや今まで身につけたことを活かしながら子ども達と関わるということが、その方自身の学びの場になると思っている。

放課後子ども教室は法律上の設置義務はなく、就労支援等の意味でやっているものだと思っている。放課後子ども教室と放課後児童クラブ両方とも中でやるべきことは子ども達の育ちの支援だと思っているので、その確認を福祉部局と教育部局でもっとする必要はある。その中でどんな活動をすべきか整理しないと、ただの預かりの場ではもったいないという認識を社会教育課の方では持っている。豊かな体験をしたり子どもの育ちに資するような活動をするためには社会教育が持っているボランティアハウスでいろんな体験活動等が活きてくると思っている。そういう面での一体化をまず来年度から

充実を図っていききたい。場所だとか人だとかの以前にやっている内容をお互い確認することがまず先だと思う。

TKP（つろうて子育て）は「子ども」というキーワードを中心にして地域の方が今まで学んできたこと等を活かす場を子ども達に提供する中で、結果的に子育ての支援につなげたいと思っている。具体的な活動に活かす場がボランティアハウスであり、放課後児童クラブになればという組み立てをしているところで、もう少し子どもの育ちを中心に据えた場づくりになればいいなというのが私達の願いである。

○高島会長 私たちから見ると、子どもに対しての悩みを抱える保護者や支援が必要な子ども達には、指導員は本当に丁寧に関わることが連携を取っていくことでより一層できるのではないかと感じた。まだまだ課題が大きいので今からかなと思うので連携強化をよろしくお願ひしたい。

○杉内直也委員 基本的な視点の中に親としての育ちの視点が明確に打ち出されていて、最後のところに「子育て力を高めるための取組を推進します」とされている。子育て力とは何かと読んでいくと、基本的な生活習慣を身につけさせる力というところで、そのためにどういう取り組みをするのか見えてこない。今あるのは、「子育ての悩みや不安への支援」という形ではあるが、それが「子育て力を高める取組の推進」にあたるのか疑問が残る。基本的な生活力を子ども達につけさせるためには何がいるのか、なかなか答えは出ないが何らかの親に対する手立ても必要だと思う。

○石川補佐 子育ての悩みや不安の中の家庭力の向上というところで、もう一つ何か施策としてあればというご意見を頂いたが、これについて検討したが、確かにこの部分は施策として薄くなっている。

○伊藤委員 「母親」という言葉でなく「妊産婦」等の表現に変えられないか。母親と書くと父親をないがしろにしていると受け取られる可能性もある。

○石川補佐 表現については検討させていただく。

○福井委員 P35「教育・保育の質向上」のところで「質の高い人材」よりは「確かな専門性を有する」や「豊かな人間性を持っている」等の表現の方が良いと感じた。

吉村委員が仰った、地域差があるというところは、ここでは提供区域の設定なので現状と課題のところでは地域差があることや地理的問題といったところを触れておいて、それを基に計画や改善策を説明していく流れの方がよいと思った。具体的にはP7 課題の中に地域差があるのであれば入れたらどうか。

P29「3 配慮が必要な子どもの育ちの～」のところ、ひとり親家庭等という表現ですが、やはり具体例としてイメージがしやすい方がよい。今ひとり親家庭が松江の方ではクラブの1/3以上がそういう状況があるとも聞いており、もしひとり親家庭にも環境整備する考えがあるのであれば残してもよいと思った。逆にそういう考えが無いのであれば削ってもよい。P38には目標として「3 ひとり親家庭等の～」が掲げられているのでP29の方にも残してもよいかと思う。

○石川補佐 「ひとり親家庭～」の文言については残す予定であったが、事務局のミスで消してしまった。残したいと思う。ありがとうございます。ご意見いただいた部分については記載ができるように検討したい。

○廣瀬課長 今お聞きしたご意見をどこまで反映できるかわからないが、しっかり対応させていただき、各委員にご確認いただきたいと思っている。

○石川補佐 修正したものについて期日を決めて再度ご意見があればお聞きするというスケジュールとしたい。今後のスケジュールとしては、議会に諮るスケジュールもあるのでそういったところも含め早急に最終版の形で修正をしたい。

○廣瀬課長 明日から3日間3/3までに意見を反映していく作業をしていきたい。3/4までに各委員にお届けし3/6までにご意見をいただくこととしたい。

○石川補佐〔説明〕

■子ども・子育てに関する条例の整備について

- ・益田市保育の実施に関する条例を廃止する条例

○糸田課長〔説明〕

- ・益田市立保育所設置条例

○福井委員 P49「計画の推進体制」としてPDCAサイクルで行うことが示されている。そしてチェック（C）のところは我々子ども子育て会議で行うということが図で示されていると思うが、伊藤委員からあったように放課後児童クラブとところのように具体的な記載が計画全体では示されていない中で毎年チェックすることが難しいかと思った。何か具体的な目標等が示されるのであれば盛り込んで頂いた方が進捗状況の確認などにも活かせるのではないか。計画内でなくても内規等でどういう項目で毎年チェックを行うという一覧表があれば、チェックしてアクションに繋げていけるのではと感じた。

○廣瀬課長 イメージとしては実施状況について毎年各年度で実施状況の取りまとめをさせていただき、その中に今年度の取組状況や課題や評価などを落とし込んで皆様方に見ていただく、そこには目標や進捗状況等が見て取れるのではないかと考えている。

○福井委員 もし他の自治体などで子ども子育て支援事業計画の出来上がったものがホームページなどであれば、具体的なチェック方法が示されている自治体もあるかもしれない。そういうものと比較して把握できる範囲で載せられるものがあればと思う。

○高島会長 それでは長時間にわたりご協議いただきありがとうございました。